

# 武蔵野市学習者用コンピュータ通信

第29号

発行

武蔵野市教育委員会指導課  
令和5年6月

市ホームページにも、これまでのバックナンバーを含め掲載しております。

「学習者用コンピュータ通信」を検索していただくか、QRコードでアクセスしてください。



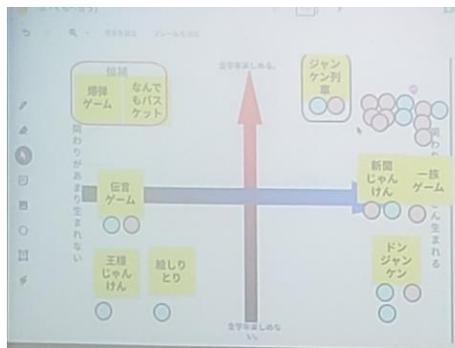
学習者用コンピュータ通信

検索



## 学級会の話し合いに、学習者用コンピュータを効果的に活用していました

小学校の特別活動の学級活動で、学習者用コンピュータを活用した話し合い活動が行われていました。5年生の授業では「仲良し活動の遊びを決めよう」を議題に、学級会が行われていました。子どもたちから「思考ツールを使いたい」と提案があり、学習者用コンピュータ活用していました。



【思考ツールを使って意見が分類されている様子】

出された意見を、「全学年で楽しめるか活動なのか」「他学年と関わりが生まれる活動なのか」を軸に司会がジャムボード上で整理します。担任の先生は「今までの話し合い活動は言葉を耳で聞くだけだったが、話し合いの流れを目で確認できることで、新しい気付きが生まれ、様々な意見が出るようになった。」と学習者用コンピュータの効果を実感していました。

6年生の授業では「学級目標を考えよう」を議題に、学級会が行われていました。よりよい学級を作るために、自分たちのよいところや課題をジャムボードに打ち込みます。数多く出された意見を分類したり関連付けたりしながら、学級目標にまとめるための話し合いが行われていました。



【意見をグループに分け、目標づくりについて話し合っている様子】

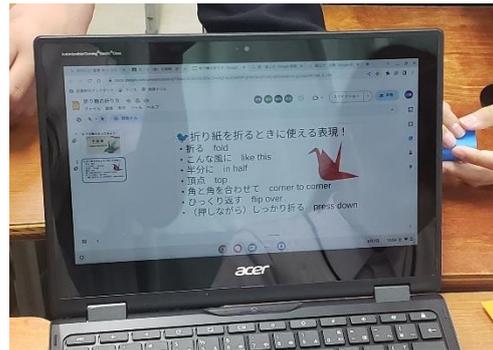
司会が「ジャムボードのページがいっぱいになってので、新しいページに記入してください。」と促す等、自分たちで話し合い活動がスムーズに進むよう工夫していました。また、出された意見を画面上で確認しながら、目標づくりに向けて話し合いが活発に行われていました。学習者用コンピュータを活用することで、話し合い活動の内容が充実しています。

(裏面あり)

## 国境を越えた異文化交流にも学習者用コンピュータが活用されています

アメリカのテキサス州ラボック市のジュニア大使が、市内の中学校に訪問し1年生、2年生と交流を図っていました。国境を越えた異文化交流が行われる中、学習者用コンピュータを活用してコミュニケーションをとっている姿が見られました。

各学級では英語を交えた交流が行われていました。中学2年生だけでなく、中学1年生も恥ずかしがることなく、堂々と英語で自己紹介をしたり、趣味や好きなことについて質問したりするなど、積極的にコミュニケーションをとっていました。交流が深まっていく中、日本の文化に触れてもらうために、折り鶴を作る体験が行われました。



【英語を交えながら折り方を教えている様子】 【説明のために作成した折り方のスライド】

ジュニア大使たちは初めて挑戦する活動に四苦八苦していました。しかし生徒が英語で説明したり、折り方の手本を見せたりしながら一緒に作ること、苦労しながらも鶴を完成することができていました。

そんな中で、学習者用コンピュータを使って折り鶴の動画を見せて説明しているグループや、自分で作成したスライド資料を使って説明しているグループがありました。これはクラスの委員による発案で、生徒が自主的に考えて行った工夫でした。発案した委員は「映像の方がみんな分かりやすいと思った」と発案理由を説明していました。



【作った折り鶴を贈呈している様子】

【昇降口で別れを惜しんでいる様子】

生徒の工夫もあり、折り鶴作りは大盛況で終わりました。最後には完成した折り鶴をつなげて輪にしたり、糸で吊るしたりするなど、各々のクラスで工夫を凝らして仕上げ、贈呈しました。たった数時間の交流でしたが、廊下で涙を流して別れを惜しむ生徒や、昇降口の外まで見送る生徒がいるなど、日米両生徒にとって貴重な時間となっていました。